

7月14日、大阪出身の友人を誘って2人で東京・新橋へ出掛けた。お目当ては「青森の食と八戸の地酒祭り in 新橋」である。八戸酒造協議

# 見創見 Tuesday

会の主催で、新橋界隈の20店舗とコラボする地酒イベントである。ほとんどが八戸市や青森県出身者が経営するお店ということである。新橋で飲むことは少なく、こんなに八

戸にゆかりのあるお店があるとは知らなかった。7月1日から31日まで開催しているが、14日は蔵元さんからお話が聞けるということだった。

午後6時半、新橋駅で待ち合わせ。雨の中、駅から一番遠かったが、八戸出身者が多いという店へたどり着いた。玄関先で「2人」と言うところカウンターに案内された。

カウンターのなかのおじさんは八戸出身だというのが忙しそう。大阪出身の友人は「この人は八戸出身だよ」などと紹介してくれる。どうも照れくさい。お目当てのお酒を注文すると、蔵元さんが説明に来てくれた。聞き慣れた方言に、思わずこちらも方言が出る。このイントネーション、ほっとする。次のお酒を頼むと、また別の蔵元さんが説明してくれた。八戸沖の炙りメ

## 自然災害から身を守ろう

### 今年は冷夏？

サバ、サケのなめろう、山芋の唐揚げ、こまいの塩焼き、バラ焼きなど懐かしい。酔いが回るにつれ口数も増え、南部弁が飛び出す。もう関西弁にも負けない。「八戸の人は純朴でいいね」と友人

人。「そうかな？」と自ずとお酒を進む。おいしい、楽しい時間を過ごすことができた。

駅への帰り道、シャモロツクの店が目に入り、もう一件。ここでも蔵元さんが活動

三浦 和彦

東京理科大学教授



みうら・かずひこ  
1955年八戸市生まれ。東京理科大学大学院修士課程修了。認定NPO法人富士山測候所を活用する会事務局長。今年1月から八戸特派大使。東京在住。

中。八戸、頑張ってるね。

7月22日は二十四節気の大暑である。この日から立秋までが本格的な夏である。「今年の夏は猛暑になる」という大方の予想で、小生もそう思っていたが、どうもそうも限らないらしい。気象庁は毎月エルニーニョ監視速報を発表している。6月10日の発表では、「2014年夏に発生したエルニーニョ現象は、16年春に終息したとみられる。今後、夏の間はラニーニャ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高い」ということであ

った。

小生も6月7日の小欄で「今年の夏はラニーニャ現象

になるので猛暑が予想される」と書いた。しかし、気象庁の7月11日の発表では「エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いているとみられる。夏の間はラニーニャ現象が発生する可能性はこれまでの予測に比べて小さくなり、ラニーニャ現象の発生が秋になる可能性も出てきた」とな

った。

仙台管区気象台が21日発表

した向こう1カ月の天候の見通しを見ると「期間の前半を中心に冷たい東風や気圧の谷の影響を受けやすく、向こう1カ月の気温は東北太平洋側では平年並みか低い見込み。期間の前半を中心に、平年に比べ晴れの日が少なく、向こう1カ月の日照時間は東北太平洋側で少なく、東北日本海側で平年並みか少ない。ま

た、東北太平洋側の向こう1カ月の降水量は平年並みか多い見込み」とある。猛暑どころか、やませが心配される。もし冷夏だとしてもやはり心配なのは、大雨・雷・竜巻である。これらの正体はいずれも積乱雲(雷雲)である。日中の高温によって地面の温度が上がり、大気が不安定になつて対流が起り積乱雲が発達する「熱雷」だけではな

く、上空に寒気が入ることで大気が不安定になり発生する「界雷」もある。両者が重なってできる雷は「熱界雷」という。この積乱雲は、集中豪雨、洪水、土砂崩れ、落雷、突風などの災害をもたらす。これらの災害から身を守るために、ぜひ気象庁の防災啓発ビデオ「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう!」を見ておくことをお勧めする。

くことをお勧めする。